



Do you read Haruki Murakami?

(村上春樹は読みますか?)

ここ最近、日本を訪れるお客様から続けて尋ねられたのがこの質問。(通訳案内士試験^(※1)にはとても出そうにない!のだけど 笑)。或るときは渋谷の雑踏を歩きながら、そう、こないだは建設中のスカイツリーの下で。Of course I do. Actually I'm a big fun of him! (もちろん、大ファンよ。)。私はいつ嬉しそうに反応してしまう。するとお客様は、He writes beautifully, doesn't he? He does not like to be in public, right? (文章が美しいね。あまり人前に出たがらない人なんだよね)、と。No, in his essay, he says that he is not comfortable at parties, so he hardly attends. (はい。立食パーティーが苦手だから極力出ないと最近のエッセイ^(※2)にもあったわ)なんて会話は展開、これで延々持ってしまう。最後は、One of the greatest happiness is to be in this world with him. (この時代に生きる幸せの一つは、村上春樹とリアルタイムで存在していることだ)、なんて意気投合!なわけである。

私が最初に村上春樹を教えてもらったのは、ロンドン行きの飛行機で隣り合わせたバイオリニストの男性。It's an interesting story, starting with the scene a man is boiling spaghetti to al dente. But he gets interrupted by a phone call of a strange woman. "Wind up bird, Chronicle" is the title. It's a long story, a thick book. (ねじまき鳥クロニクル、という村上春樹の小説がある。主人公がスパゲッティをアルデンテに茹でようとしてるんだけど、途中で電話がかかってくるシーンで始まるんだ。分厚い本だよ。ぜひ読んでごらん。)それは、私はロンドンへ短期留学に向かい、彼は 来日コンサートツアーから帰るときのことだった。相当

前、学生時代だから今から〇×年前。Don't ask ;)。以来、村上春樹を嗜む幸せを覚えてしまった。

そう、嗜む。それもひたすら。日本語オリジナル、英訳本、さらにオーディオブック^(※3)をiPhoneで聴く、と3つのスタイルで、Beautifully written なプロットを追い、Beautifully played な旋律に酔う。I guess I'm addicted but I am happy to be so. (もはや中毒、でも幸せ)。ちなみにこれらはすべて、アマゾン^(※4)経由。でも先日は大失敗。もう英語版出とうやん!と、分厚そうな「1 Q 8 4」をワンクリック注文したら、届いた段ボールを開けて気づいた、ドイツ語版やん、読めん(涙)。来春お会いするドイツのお得意様に差し上げよう。



ところで、通訳案内士をしていると、そういつも村上春樹のことばかり聞いてもらえるわけではなく、観光やビジネスと関係がなかったり、自分の関心外の話話を振られることもめずらしくない。そんなとき、どうするか。don't follow + butの出番である。たとえば私は普段あまりスポーツを観ないので、野球の試合みた? サッカーみる? と聞かれたら、こんな風に適用する。I don't follow baseball very much myself, but should be exciting. How was the game last night? (私はあまり観ないけど、どうでしたか) せっかくのテンションを下げないように、やんわりフォロー、そして逆に教えていた

いてしまう。大丈夫、ほとんどの方は喜んで話してくださる。

さて、村上春樹に話を戻そう。このコラムを皆さんが読んでくださる頃、村上春樹の代表作「ノルウェイの森(Norwegian Wood)」の映画が公開されているはず。原作刊行から四半世紀。そう、最初に手に取った頃からもうそんなに経っていたのだ。Time flies. 切なすぎるこの作品が映像になって、背後にビートルズの「ノルウェーの森」が流れる。ああ、想像しただけで胸がきゅんと締め付けられてしまう。For me, it'll be the most cherishable Christmas gift ever (この映画、最高のクリスマス・プレゼントになりそう)! みなさんはもう、ご覧になりましたか。

今きつと、街はイルミネーションでキラキラ。お客様にはよく、Very Chrismassy! No sign of Buddhism! (クリスマス一色ね、仏教国じゃなかったの?)と驚かれてしまうのだけど、まあ、いいじゃない。これは日本のデコ×エコ文化^(※5)のハイライト、めいっぱい楽しんでしまおう。愛する人と華やきたい気持ちは世界共通なもの。Enjoy your year-end!

※1 通訳案内士試験: 外国人観光客を案内する通訳案内士の国家試験。年一回行われる。

※2 雑誌ananに連載中の「村上ラヂオ」。日常的で気取らないエッセイがおもしろい。

※3 オーディオブック: audible.comなどでは、数々の本が音声データで販売されており、ネット経由で購入、ダウンロード、iPhoneなどで聴くことができる。本によっては複数のナレーションから好みの声を選ぶことも可能。

※4 アマゾン: ネット書籍販売サイト、amazon.com。ワンクリック注文など独自のアイデアで急成長。

※5 デコ: デコ=デコレーションを施す。携帯や爪などをキラキラに飾るギャル文化。エコ: eco-friendly、地球環境に配慮していること。一昨年からクリスマス・イルミネーションが復活した表参道は、1キロに渡るけやき並木が輝くが、90万個の電球はすべてLEDだそう。